

こんな遅い時間まで  
国際劇場で  
レビューを観ていた!?

小学生のおまえが  
たったひとりで!?

母さんが  
どんなに心配したと  
思ってるんだ!!

もういいわ  
あなた

こうして  
ツグが  
無事に帰って  
来たんだから…!

そんなこと  
言っておまえ  
警察に  
捜索願を…!

第三話



父親に  
烈火のごとく  
吐られながらも

忠次少年の頭の中は  
さつき観た  
レビューのことで  
いっぱいだった



その翌年の  
昭和19年  
戦局は次第に激化

国際劇場も  
閉鎖ですって

風船爆弾を  
作る工場に  
なったって噂よ

わ……  
寂しい

戦争なんて  
嫌ね……

小学6年生になった  
忠次少年も家を離れて  
栃木県塩原しほはらに  
集団疎開が決まった

男子生徒は  
みな坊主頭と  
決まっています

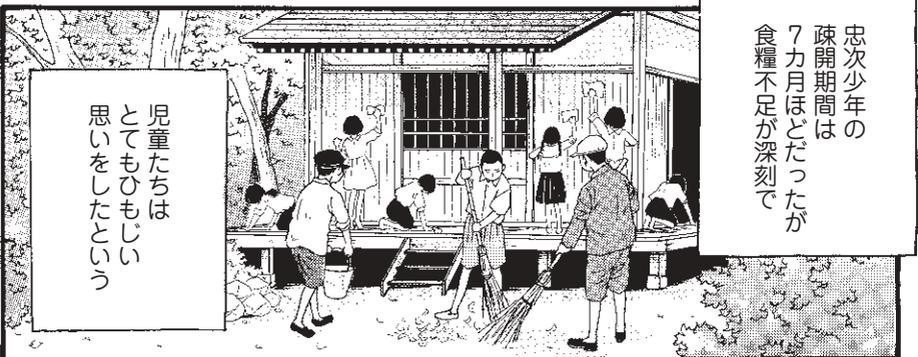
佐々木くんだけ  
従わないので  
お母さんからも  
説得を……



さすが  
ぼくの  
母さんだ...!!

はあ...

でも本人が  
嫌と言うなら  
仕方が  
ないと.....



児童たちは  
とてももじい  
思いをしたという

忠次少年の  
疎開期間は  
7カ月ほどだったが  
食糧不足が深刻で



昭和20年3月

わあ!!

あせらず  
よく噛んで  
お食べ！

卒業式が  
あるおかげで  
6年生だけ早く  
東京に帰れて  
よかったね



お父さんが今  
海軍の仕事  
を請け負って  
いるから

よそよりは  
いろんなもの  
が手に入るのよ

おなかが減って  
道端の草や  
山のドングリを  
拾って食べた

お手玉の中の小豆を  
こっそり食べてた  
子だった

世の中は  
ものすごく  
不公平で理不尽だ  
!!

あの苦労と  
ひもじさは  
何だったんだ







だめよ  
ツグ  
危ないわ



ぼく  
助けを  
呼んでくる



誰か助けてー！

火を消して  
くださいー！

火を消すのを  
手伝って  
くださいー！！

なんで？

なんで誰も  
出てきて  
くれないの！？



バケツリレーの  
練習を  
あんなにみんな  
やったのにー！！



誰かー！！

昭和20年8月  
東京は焦土と化して  
終戦を迎えた

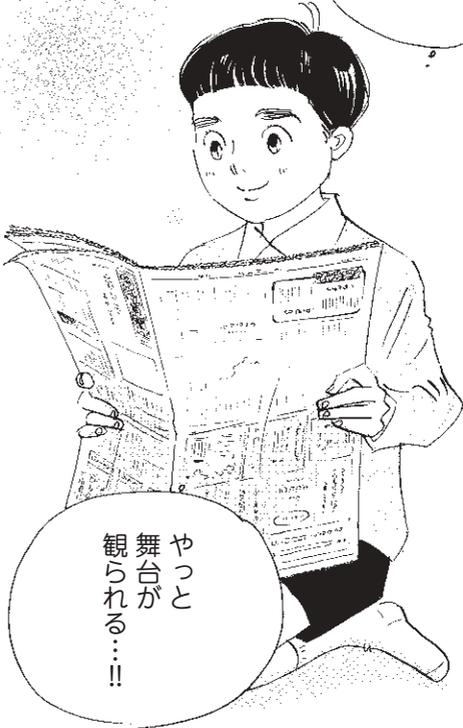
忠次少年の心には  
大人や社会への  
大きな不信だけが残った



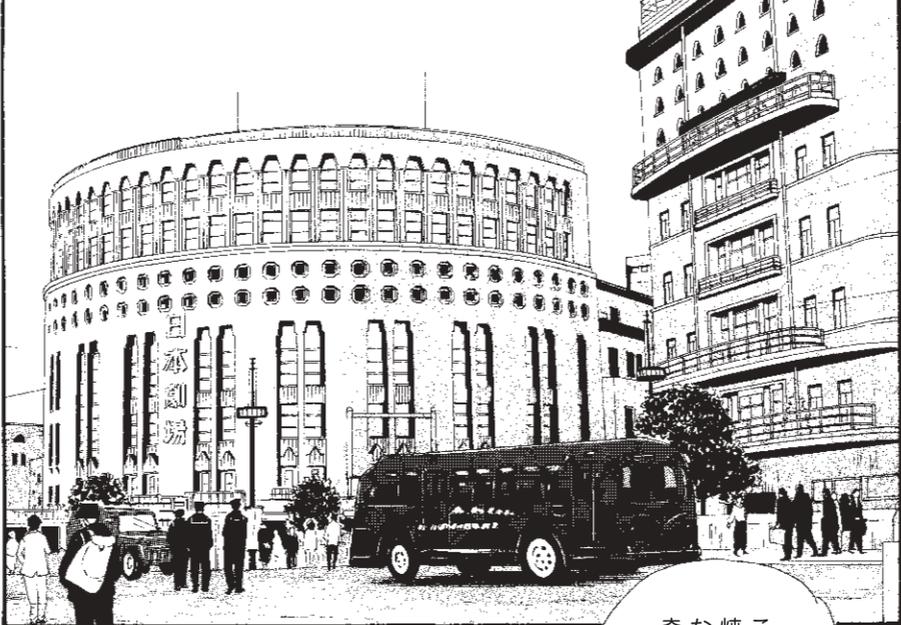


終戦から  
3カ月

ああ  
やっと…



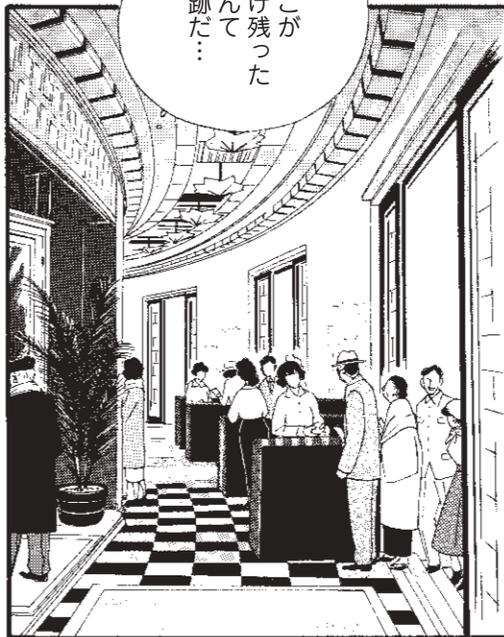
やっと  
舞台が  
観られる…!!



ここが  
焼け残った  
なんて  
奇跡だ！



神様  
ありがとうございます



イツツ  
ショータイム!!

わあ……!!!



ううん  
夢じゃない

まるで  
夢を  
見てる  
みたい…

戦争は  
本当に  
終わったんだ

ああ  
なんて  
きれい…

いつか



いつかほくも  
この素晴らしい  
世界に  
入りたい——!!



時は  
移り――

なに!?

舞台の  
仕事が  
したい!?

そんな  
虚業を夢見て  
どういうつもりだ  
おまえ!!

まあ  
あなた……!

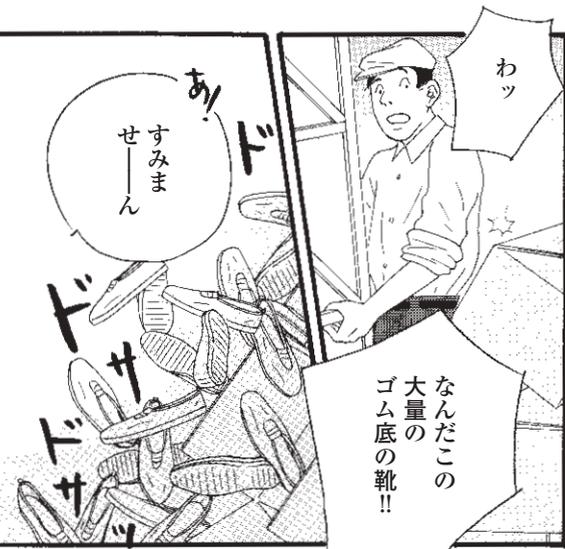
昔から  
兄弟の中で  
ツグはいちばん  
心が繊細なのよ

芸術の道に  
進むのが  
この子にとって  
いいことだと  
思います

やっぱり  
母さんは  
ほくの味方だ

うむ……

忠次はもうすぐ  
大学を卒業する





失礼します



誰か  
だなんて

ただぼくが  
自分で  
思いついた  
だけです



なるほど！  
いい案だね  
誰に  
言われたの？



だろ

へー  
なかなか  
気がきくのが  
入ったな



忠次が  
夢に向かって  
踏み出した  
最初の一歩だった